

名刺一葉が残されてあるだけである。

この調査にあたっては同僚の清水陽人氏によるフランスでの実地調査、リヨン市のモーリス・フョラン氏(Dr. Maurice Ferrand)、サル・シュール・レルス村の村長マリウス・グレズ氏、助役のジルベール・ブラン氏、そして郷土史家のガストン・テッシニール(Gaston Tissier)氏とオウグスト・アルマンゴー(Auguste Armangaud)の精力的な調査という日仏協同調査によってそのほぼ全貌を明らかにすることができたものである。

今後蒐集された資料を整理し明治初期における日仏医学関係の史実により正確な光をあてたいものと考えている。その一端を報告する。

(県立ガンセンター新潟病院)

『医心方』の伝写(Ⅵ) 卷廿二 について

杉立義一

『医心方』卷廿二は産科篇であり、特に妊娠各月に針灸を禁すべき経脈を图示した妊婦図十図を含んでいるのが特徴である。このためか零本も含めて現存する写本の数は、『医心方』三十卷の中で最も多い。筆者はこの妊婦図を基準とした卷廿二の伝写について報告する。

一、頭上二鬚の図を持つ系統

1、半井本

医心方每巻紙墨古今鑑定(『医心方提要』)

廿二、此一巻界欄ナシ、最新写本ナリ、此本婦人産図ノ形ヲ以テ考ルニ必是真跡本ヨリ写タルモノナルヘシ、錦小路ニ康頼真跡ト称スル廿二巻一卷アリ、伝写ノ本宝素堂ニ蔵セリ、コノ原本ハ蓋半井本ノ散逸セシモノニテ同本ナルヘシト想ヘリ……。

2、書陵部本

3、安政版

医心方影写告功録（『医心方提要』）

廿二、己未五月写成、祐庵（源久貫）原本新写ニ付、補

筆有ト雖モ、其字体スヘテ見ルニモタラス、故ニ刻本ハ康

頼真蹟本ト云モノニテ刻ス、右真蹟本ハ全卷字体新写一様

ニ付、是又補筆ナシ、因テ補筆校改イタサス

4、成篋堂本

医心方伝来書（『医心方提要』）

楊守敬『日本訪書志』

富士川游宛徳富蘇峰書翰（『芳翰帖』）

「医心方」を得るの記（『読書九十年』）

伝来経路

半井家―岡本家―錦小路家―稲垣真郎―徳富蘇峰―お茶

の水図書館

二、垂髪の図をもつ系統

1、内閣文庫本 廿卷廿冊

跋文……更以臣嚮所得第二・第八・第廿二九三卷足之合

為廿本……

寛政三年冬十一月吉旦

丹波元應謹書

2、聿修堂本

3、篷左文庫本 廿卷廿冊

跋文……更以臣旧藏第二・第四・第廿一第廿二九四卷足

之合為廿一本……

4、大東急記念文庫本 廿卷廿冊 文政三年写

5、杏雨書屋本 十九卷廿冊 文政十三年写

6、桂仙堂本 十九卷廿冊 文政十三年写

7、静嘉堂本 十九卷十七冊 筆写年不明

8、東京大学総合図書館本 廿一卷廿一冊 多紀元堅旧

蔵 弘化四年写

9、刈谷図書館本 二十卷廿二冊 村上承卿 天保十一

年写

10、杏雨書屋本 八卷八冊 野神正純嘉永二年比校

11、杏雨書屋本 十六卷廿冊 中邨有嘉嘉永四年写

12、三宅氏蔵本 十九卷廿四冊 筆写年不明

13、杏雨書屋本 十九卷廿冊 浜田繁次郎昭和十四年写

以下零本

14、片倉鶴陵手抄本（杏雨書屋蔵）

前本 寛元二年十一月四日写

天明四年甲辰歳冬十月念五日 鶴陵片倉周騰写于白銀第

二街増東舎

15、田口氏蔵本 大戸孟寛政九年写

16、小島学古手写本（杏雨書屋蔵） 筆写年不明

17、佐伯理一郎写竝校本（桂仙堂蔵） 明治廿五年写竝校

考 按

1、頭上二鬢の図は何に拠ったか。

2、垂髪の図が画かれたのは何時か。

3、仁和寺本卷廿二は二鬢であったか、垂髪であったか。

（京都府医師会）

『医心方』にみられる月経異常の 治療

松 永 勝

医心方において月経異常の治療法の記載は卷第廿一にみられ、次の4四種類が挙げられている。

治婦人月水不調方第十九、治婦人月水不通方第廿、治婦人月水不断方第廿一、治婦人月水腹痛方第廿二

これらについて考察を試みてみた。

（福山市 開業）